



カブトムシはどのくらい生きるの

およそ30日しか生きられない

カブトムシは、夏の暑い時期に、およそ1か月間ほど、元気に飛び回ります。木のしるを吸い、オスやメスはたがいに相手を探し、卵を産み、やがて卵を残して、死んでしまいます。たった30日しか生きられないのか、とかんちがいしないてください。カブトムシの一生は、じつは、およそ1年あるのです。

幼虫時代がいちばん長い

くさった木くずなどの中に産みつけられた卵から、10日ぐらいすると、すぐ、幼虫が出てきます。幼虫は、まわりのえさをもりもり食べ、何回か脱皮をくり返して、どんどん大きくなっていきます。秋の初めごろ生まれた幼虫は、冬をこし、つぎの年の春には、卵から出てきたときの、300倍もの大きさにまで育ちます。6～7月ごろ、さなぎになります。そして、3週間ほどすると、カブトムシになって地上に出てきます。

カブトムシの一生は、幼虫ですごす期間が、大部分だということがわかります。

(監修・中山 周平)

カブトムシの一生

